

令和4年を迎えて

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は前年からの新型コロナウイルス感染症が更に猛威を發揮し、真夏の脅威として医療機関は地域によっては崩壊に等しい大きな影響を受けました。“こんなことが日本であってよいのか”という事態に追い込まれ、戦々恐々とした日々を過ごす毎日でした。また、1年遅れでのオリンピック・パラリンピックは開催されましたが、諸々の制限下の中では、50余年ぶりの夏の祭典を十分に楽しむことは出来ませんでした。それでも、獲得した金メダルはオリンピックで27個、パラリンピックで13個と過去最多を記録し、選手達がコロナ禍を吹き飛ばす活躍には感動を覚えた次第です。ちなみに、この年の漢字一文字は“金”となりましたことは皆様ご存じのことと存じます。

新型コロナ感染も9月以降は徐々に新規感染者は減少し、11月からは減少の一途をたどる良化が顕著となりました。世界的には新たな変異株「オミクロン」の発生で新たなパンデミックが危惧されておりますが、日本の国民性を活かした守るべきことは守り、するべきことはして、何とか終息へ向きたいものです。

さて、環境の世紀である21世紀、今年のCOP26では「世界の平均気温の上昇を1.5度に抑える努力を追求する」と成果文書に明記され、世界の新たな共通目標が設定されました。わが国でも2050年への温室効果ガス排出量ゼロ目標へ向け、まずは2030年に2013年対比で46%削減があります。岸田総理は2030年までの期間を「勝負の10年」と位置づけており、既に10年は切りましたが我々も一年一年を更なる意識と取り組みの強化を図り、大きな目的の達成に寄与できればと存じます。

一方で、リサイクルの方法では今後舵取りが徐々に変化していくことが予測されます。我が国は、焼却による熱回収のサーマルリサイクルが6割以上で推移しておりますが、海外では焼却をリサイクルとは言わないと、小泉前環境大臣も申しております。日本はむしろ“環境劣等生”との厳しい評価もあります。このような状況を捉えてか、建廃協は昨年末には建設混合廃棄物の組成調査と廃プラの組成調査を関連省庁・団体(国交省・日建連)から依頼を受け実施しました。2022年は更なる混合廃棄物の削減と廃プラの高度リサイクルのニーズが高まるのではと料します。

建設業界に目を向けると、コロナウイルスの感染拡大までは東京五輪や都市再開発などの影響で「建設バブル」とまでいわれるほどの好況でしたが、2019年度には65兆円以上とみられていた建設投資額が、2020年度に約63.4兆円、2021年度には約61.8兆円まで減少するとの見通しがなされております。特に、飲食店や宿泊業などのサービス業への影響が深刻であり、中小規模の建設現場における工事の中止が相次いでおります。この影響は建設廃棄物の排出量の減少にも繋がり、我々建設廃棄物処理業界への影響も厳しいものであると料します。だが、“明けない夜はない”と言います。ここは何とか踏ん張って“適正処理”と“リサイクルの推進”に向けて頑張りましょう。

年が明けて今年は十二支では「寅年」、九星気学では36年に一度の「五黄の寅」となります。解釈では、最強の運気を持つ年となるそうです。寅年の方々に限らず、皆様方におかれましても、組合にとっても強い運気を引き寄せた一年といたく存じます。

建廃協は、2022年を更なる環境配慮とリサイクル推進の一年と位置付け、皆様に有益な情報提供と新たな脱炭素の取組みやリサイクルネットワークの開拓に最強の運気を引き寄せて、積極的な行動の一年として行く所存でございます。

どうぞ本年も変わらず、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様のご多幸、ご健勝を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。